

【学校名】	津久見市立第一中学校	【教育相談コーディネーター名】	本村 健太郎
-------	------------	-----------------	--------

実態(課題)の把握

(1) 自校のいじめ・不登校に関する状況について(複数年度)

いじめの認知件数	H27	H28	H29	解消率	H27	H28	H29	不登校児童数	H27	H28	H29	不登校	新規数	継続数
自校 1000人当たり	3件	15件	15件	自校	100.0%	100.0%	100.0%	自校 1000人当たり	6人	4人	2人	H27	1人	3人
大分県 1000人当たり	29.9件	29.7件		大分県	84.7%	88.1%		大分県 1000人当たり	28.0人	30.5人		H28	1人	4人
全国平均 1000人当たり	16.5件	23.9件		全国平均	88.7%	90.6%		全国平均 1000人当たり	28.3人	30.1人		H29	0人	2人

(2) 自校の課題について

本校は現在不登校の生徒が一名おり、家庭や関係機関と連携して解消を図ることが課題となる。また、新規不登校生徒をつくらないため、不登校予備軍と考えられる生徒に対して、本人との関わりや家庭との連携を大切にしながら、不登校にならないようにしていきたい。

① 重点目標	(1) 新規不登校ゼロを目ざし、生徒指導を充実させる。 (2) 専門機関と連携し、本人のケアとともに生活の改善を図る。
② 達成指標	(1) 新規の不登校生徒数を「0」にする。 (2) 「教室に自分の居場所がある」と「学校が楽しい」と感じる生徒を80%以上にする。
③ 重点的取組	(1) 絆づくりアンケートを定期的の実施し、生徒の様子を把握する。 (2) 年間2回のhyper-QUを実施し、客観的な資料をもとに学級・学年経営や指導を見直す。 (3) 週2回の職朝と週1回の生徒指導委員会で生徒の様子や指導の状況等、情報交換を行うとともに、具体的な対策を立てる。 (4) 不登校対策委員会を活性化させ、初期対応を組織的に迅速に行う。 (5) 不登校対策委員会を中心とした組織的な対応と関係機関との連携を図る。
④ 取組指標	(1) 生徒指導委員会を中心に、学期に1回の絆づくりアンケートを実施する。 (2) 1学期と2学期にhyper-QUを実施し、結果の分析と指導・経営の見直しを行う。 (3) 担任だけでなく、学年や生徒指導委員会で不登校生徒の対応を協議し、支援を行う。そのために週1回、生徒指導委員会を開催する。

組織運営と検証改善(検証頻度と検証方法)

<組織運営>

○学期に1回の「絆づくりアンケート」を行い、生徒の実態把握と重点指標の検証を行う。

<検証改善>

○週2回の職朝で生徒の様子を確認するとともに、週1回の生徒指導委員会で生徒の情報交換および実態把握と対応を協議する。

SC、SSW、地域児童生徒支援コーディネーターの活用方法について

<SC、SSW>

SCには週1回の生徒指導委員会に出席していただき、情報交換の他、専門的な見地から助言をしていただく。SSWには学校内で解決・改善が困難なケースが生じた際だけに限らず、日頃から情報交換をしながら、関係機関との連絡調整や保護者と関わりをもつていただく。

<地域児童生徒支援コーディネーター>

校内において連続7日の欠席があった場合、「つくみっ子欠席連続7日目連絡シート」を活用して地域不登校防止推進教員に相談し、助言を求めるとともに、必要に応じて生徒や家庭に関わっていただく。